

みんなの想いをこめて

知っていますか？田んぼに裸足で入ると、ヌルヌルっとしているんです。この感触は体験しないとわかりません。40年近くも前、地球環境問題を世に訴えたアメリカのレイチェル・カーソンは、晩年、著書『センス・オブ・ワンダー』（上遠恵子訳、新潮社）の中で、子どもにとって、『知る』ことは『感じる』ことの半分も重要ではない。」と語っています。

幼いころに体験した自然の中で出会う感動や恐ろしさ、発見のよろこび、そしてさまざまな人との出会いの中で生じる、うれしかったり、泣いたり、笑ったり、怒ったりという感情や体験は、大人になっても忘れることのない大切なものです。子どもの成長にとって欠かすことのできない体験を、わたしたちは、一方的に大人の都合で奪ってきたのではないのでしょうか。

こうした反省に立って、県内のすべての子どもたちが、幼児期からこのような体験ができるよう、多くの幼稚園・保育所にご協力をいただき、地域のフィールドに応じたプログラムの企画、実践、検証、改良を積み重ね、このたび、「うおーたんの自然体験プログラム」を作成しました。

このプログラム集づくりの検討過程には、“身近な自然の中で、友だちと全身を使って遊んで楽しい思い出をつくり、大人になっても地域を大切に思う気持ちを持ち続けてほしい”と願う幼児教育・保育現場の方々のおもいや、“いのちの尊さや、自然と人間とのつながりに気づき、自然と共に生きていく力を身につけられるよう、自然体験学習を広めたい”という、滋賀県幼児自然体験型環境学習検討委員会委員のみなさんのおもいが込められています。プログラムをご提供いただいた多くの幼稚園・保育所をはじめ、検討を中心的に担っていただいた同委員会のみなさんの献身的なご協力に対して、心よりお礼を申し上げます。

自然と人間がともに輝く滋賀の創造をめざし、わたしたち大人の責任として、豊かな感性や地域を大切に思う気持ちのめばえにつながる子どもたちの自然体験学習の機会を増やしていくため、このプログラム集をきっかけとして、地域特性を生かした独自性あふれる取組が数多く生まれることを期待しています。

平成17年（2005年）3月

滋賀県知事 國松善次